



# Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

## 評価報告書

— 2017年度 分野別研修事業 —

(終了時評価—2018年4月)

### 水産指導者養成（漁業管理）コース

#### 研修生受入の概要

研修コース名	水産指導者養成（漁業管理）コース
参加国及び参加人数	5か国 5名（ギニア共和国…1名、モロッコ王国…1名、スリランカ民主社会主義共和国…1名、タンザニア連合共和国…1名、ベトナム社会主義共和国…1名）
研修コース実施の経緯と背景	<p>我が国と漁業協定を締結している沿岸国は、自国の水産資源の有効活用に基づく、水産業の開発並びに振興と適切な漁業管理制度の構築を重要な政策の一つと位置付けている。また、水産資源の持続的利用の意識が国際的に高まるなか、特に行政職や研究職の漁業管理の中核を担う幹部候補の人材育成は喫緊の課題であり、各途上国のニーズが大きい。</p> <p>本研修は、我が国と漁業協定を締結している沿岸国、地域漁業管理機関や国際的な漁業関連会議の場において我が国に協調する沿岸国及び我が国水産系企業が海外合弁等事業を展開している国の政府スタッフ、特に行政職や研究職の漁業管理の中核を担う幹部候補を対象として、漁業行政能力の向上を図り、関係沿岸国のニーズを満たすとともに、我が国の海外漁場の確保、維持並びに水産資源の持続的利用に係る理解の向上のため開設したコースである。</p>
研修期間及び研修場所	<p>2017年8月7日～11月27日（113日間）</p> <p>一般研修：8月7日～8月16日（10日間） （研修場所：幕張国際研修センター）</p> <p>技術研修：8月17日～11月22日（98日間） （研修場所：鹿児島大学）</p>
上位目標	関係途上国における水産資源の持続的利用が促進される
研修目標	関係途上国の漁業管理行政又は研究部門の中級・上級官の業務を担う指導者が育成される
成果	指導者候補生の漁業管理技術が向上する

<p style="text-align: center;"><b>活 動</b></p>	<p><b>1) 一般研修</b>          学科講義：日本語基礎会話          我が国の水産業の紹介（日本の海外漁業協力、日本の水産業概論、日本の漁業協同組合、日本の水産増養殖、水産資源管理、日本の水産政策、水産物流通、責任あるマグロ漁業、リモートセンシング）          視 察：水産関連施設（魚類市場、研究施設、漁港等）</p> <p><b>2) 技術研修</b>          学科講義：水産学一般（大学院修士課程レベルの水産学諸科目）、養殖学、熱帯漁業管理学、海洋資源微生物学、海洋微生物学、海洋測器学、水産資源解析学、魚類学、海洋生態学、沿岸環境工学、漁具漁法学、魚群探知機と資源量評価、PCM・PDM法、水産食品製造・保蔵学、水産制度論、水産経済・政策学、漁業技術改良等          演 習：統計資料分析法、プロジェクトプランニング等          視 察：水産関連施設（魚類市場、研究施設、漁港等）          技術実習：網修理技術及び海洋調査乗船実習</p>
<p style="text-align: center;"><b>投 入</b></p>	<p><b>財団側</b></p> <p>1) 一般研修 人的投入（講師・指導員）：講師：9名（水産講師）           物的投入（研修資材等）：学科講義各テキスト、プロジェクター、パソコン等</p> <p>2) 技術研修 人的投入（講師・指導員）：鹿児島大学大学院水産学研究科（講師・指導員）24名           物的投入（研修資材等）：鹿児島大学水産学部の施設、機器、備品、文献 等</p> <p>3) 事業費 13百万円</p> <p><b>受入対象国側</b>          投入なし</p>

**評 価 事 項**

**◆ 妥 当 性**

**1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか**

我が国と漁業関係を有する途上国は、自国水産業の開発・振興と適切な漁業管理制度の構築を重要な政策として位置付け、そのための人材育成のニーズが大きい。特に将来、幹部となる有能な若手スタッフを対象とした能力開発とともに国際感覚の習得が可能となる長期間研修の希望が強い。

本研修の実施計画は漁業管理等に係る知識の習得を目的として長期に亘り実施するものであり相手国のニーズに合致していた。

## 2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

研修内容は、途上国政府の漁業管理行政又は研究部門の中級・上級官が必要とする水産に関する幅広い知見を与えるものであり、これを実現する研修カリキュラムを所要の期間で設定している鹿児島大学で実施し、妥当であった。

なお、鹿児島大学における技術研修は、「鹿児島大学の特別の課程における履修証明プログラムに関する規則」に基づく履修証明プログラムとして実施されており、研修生は大学院水産学研究科の受入研究者又は履修証明プログラム受講生と位置付けられ、受講後には履修証明書が各自に交付されている。

これにより、研修生は、大学院修士課程の一部単位を取得でき、各々のキャリアアップに直結する内容であった。

## 3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

研修生は、研修に必要とされる英語能力（話す・書く・読む）を十分に有する者を選考しており、一般研修では各種水産専門講義を実施し、技術研修では鹿児島大学大学院において漁業管理に関する各種講義ならびに実習を実施した。一般及び技術研修期間を通して指導員、研修監理員を適切に配置するなど研修生活の実態を考慮した実施計画が作成された。

## 4. その他

特になし。

## 効 率 性

### 1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

一般研修では、日本の水産概論等の水産専門講義に9名の講師を配置した。

技術研修では、受入れ講座の准教授1名を指導員に、各専門分野の講師を配置した。

これら指導員及び講師に加え、研修教材や機材は、それぞれの研修場所に計画通り投入され、期待される成果を上げた。

### 2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

本コースは、2年の修士課程で取得する30単位のうち、主要8単位を数か月で取得するコンパクトで効率的なプログラムであり、各カリキュラムの研修日数、講義、実習の内容と水準並びに指導方法は、これまでの経験を踏まえ、適切に計画され、実施された。

### 3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

本コース研修生の選定については、多数の応募者から、学歴、専攻、語学力等の複

数の項目を数値化し評価をするとともに、各種応募書類及びレポートの個別評価、職歴及び職務内容等、多岐に亘る項目を財団及び鹿児島大学で検討の上、選考を行った。これにより、本コース研修生としての素養及び適性について一定水準以上を確保したことが効率的な研修の実現に大きく貢献している。

## ◆ 有効性

### 1. 研修目標の達成度

**研修目標： 関係途上国の漁業管理行政又は研究部門の中級・上級官の業務を担う指導者が育成される**

本研修ではプロジェクトプランニング等実践的研修がプログラムされており、研修生の漁業管理行政又は研究部門の中級・上級官としての総合的な漁業管理技術が向上し、研修目標は達成された。

### 2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）

特になし。

## ◆ インパクト

### 1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

研修生は帰国後、各々の所属機関の中級・上級スタッフとして漁業管理行政又は研究業務に従事することから、研修の成果は各国の漁業管理のための施策や研究の推進に直接反映され、水産資源の持続的利用という上位目標の達成に及ぼす効果は大きい。

### 2. 研修事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

漁業開発・振興及び漁業管理の中核を担う人材が養成されることにより、相手国の漁業行政能力の向上が図られる。

### 3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）

特になし。

## ◆ 持続性

### 1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か

本研修コースにより、研修生は自国が抱える漁業管理に関する問題を解決するための手法を習得した。このことは、漁業管理を国レベルの政策として推進しようとする

自国のニーズに合致していること、研修生が引き続き自国の漁業管理分野の業務に携わること及び帰国後も習得した技術の普及が継続されると期待できることから、持続性は認められる。

2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上

.....